

2022年4月2日

キャリアコンサルティング技能検定1級 学科・論述・面接試験 体験記

1級受検番号 NO 03F3620409 氏名 K.Y (埼玉県在住)

■1級技能士を目指したきっかけ

2級技能士を取得したときに、国家資格として最高峰である1級技能士にも、いずれは挑戦したいと思っていました。しかし、当時は受験に関する情報も少なかったため、受験資格が得られるまでの3年間は、とにかく実務経験を積んでおこうと考えていました。

■当初の勉強法

自分の周りには1級技能士の方はおらず、何をどう勉強したらよいかわからない状況でした。そのような時、「1級キャリア塾」の開講を知り、参加させて頂きました。当初は2級技能士を取得した自信（驕り？）や取得後3年間の実務経験もあったため、「1級技能士もなんとか合格できるのではないか？」などと甘い考えでおりました。しかし、講座を受講していく中で、2級技能士との違い（指導者レベルであることの意味合いや視座、試験内容や範囲、面接の評価区分等）を知り、自分の考えの浅はかさ、能力の未熟さを痛感しました。最初はロールプレイもおぼつかなく、力不足を露呈していた感もありましたが、講師の方々の丁寧かつ的確なご指導を受け、自分自身の面接スタイルを客観的に見つめ直すことができたと思います。

■合格のきっかけ

私は合格までに数年を要したのですが、最初は不合格の要因を顧みようとせず、「来年は大丈夫」と根拠の無い自身で、ある意味、出たとこ勝負で面接試験に臨んでいた感がありました。しかし、不合格が数年続き、何とかしたいと要因分析を初めて試みたところ、評価区分の中で問題把握力と具体的展開力に波があることがわかりました。その後は、評価区分の4区分の意味合いを改めて理解し、安定した面接力の強化に取り組むことにしました。遅まきながら、自分の弱点把握と質問力強化に向けた実践の繰り返し、功を奏したのではないかと、今になっては思っています。

■学科試験の勉強

「キャリアの青本Ⅱ」や過去問を徹底して繰り返しました。実際、過去問から同じ問題が出たこともありますので、過去問への取り組みは必須だと思います。過去問で問われる用語、理論、人物など、出題傾向を分析し、出題確立の高いカテゴリーは必ず正答するように対策を練りました。また、試験直前に「学科在宅模試」に取り組むことで、実践のイメージを掴むようにしました。合わせて、時間の有効活用（通勤や移動の隙間時間での単語帳活用等）や、オン/オフの気分転換も心掛けるようにしました。

■論述試験対策

「1級実技試験（論述・面接）合格バイブル」を熟読し、過去問をとにかく繰り返し実施しました。過去問の選択問題は「企業分野」「需給調整機関分野」「教育機関分野」の全ての問題を解くようにしました。10月位から試験のある12月までの期間は、毎日1問（必須問題または選択問題）を時間内で回答できるように練習し、休日は実際の試験同様に必須問題と選択問題の計2問に取り組みました。また、「紙」に「鉛筆で書く」ことにも慣れることを心掛けました。

■面接試験対策

「合格バイブル」のDVDや、「これだけ覚える1級対策講座」で面接におけるポイントを学習し、ロールプレイで実践できるように練習を重ねました。最初は、頭で理解することと、実際にやってみることが伴わないことに苦労しました。また、評価の4区分を意識し、目の前の事例相談者の問題解決や成長を支援することを並行して実施するには、どうしたらよいのかがわからず、試行錯誤を繰り返しました。具体的には、自分のロールプレイを録音して自分の面接のクセを把握したり、学習仲間に客観的なフィードバックを頂くなど、常に実際の面接をイメージしながら、口頭試問の練習も合わせて練習しました。

■受検される方へメッセージ

私の反省点を省みると、まずは1級技能士試験の内容（求められる知識・スキル、評価区分）をしっかりと把握することが大切だと思います。私は講義で伺った「論述試験は、面接試験と同じ」という言葉の意味が当初は理解できませんでした。しかし、数回不合格が続いた時、ようやく、この頂いた言葉の意味合いが理解でき、それからは論述試験と面接試験の対策が自分の中では一貫して行えるようになったように思います。1級技能士試験は確かに簡単な試験ではありませんが、試行錯誤して取り組んでいく中で、自分なりに見えてくる方策や得られる自信も多々あるかと思います。「継続は力なり」だと思います。応援しております。